

急変時の入院受入れ体制の整備における病病連携について

1 医療や看護のスキル提供を介した病病連携について

○在宅療養者の急変時の入院受入れの促進や、入院医療と在宅医療の切れ目のない連携を推進するためには、急性期病床を持つ病院からの患者の流れの円滑化、また、地域包括ケア病棟や回復期・慢性期病床を持つ病院におけるサブアキュート患者やポストアキュート患者の受入れ体制の整備などを進めていく必要があります。その対応策の一つとして、医療や看護のスキルの提供を介した病病連携の促進ということについて検討してきました。

○前回の懇談会では、こうした概念を医療や看護のスキルの提供を介した病病連携という具体的なしくみとして案をお示しましたが、このしくみが有効であるかどうか、さらに各病院の現状やニーズを広く聴取する必要があるとの意見をいただきました。

2 市内病院からの意見聴取の結果

回復期・慢性期病床を持つ主な病院に、スキル提供を受けることへのニーズや、患者の受入れ幅拡大への意向、病病連携への意向等についてヒアリングしたところ、以下のような意見をいただきました。

○スキルを学ぶ機会の現状としては、新たな治療方法等の情報提供や疾患の医学的管理等についての病院によるオープン形式な研修会等の機会はすでに多く存在し、また個別事例の医学的管理やケアについてのテクニカルな伝達は退院支援の引継ぎ等においても行われている。

○スキルを学ぶことへの医師のニーズや患者の受入れ幅拡大への意向については、自院の医療的環境や体制内において、責任の果たせる範囲を超える医療の提供は難しいとの判断もあり、また、地域包括ケア病棟では包括的な報酬単価であることも相まって、患者の受入れ幅拡大への意向とそれを踏まえたスキル提供へのニーズは高くないのではないか。

○看護師については、褥創や感染管理、認知症などのスキルアップについて、認定看護師等からの指導をしてもらいたい。

○一方、病院間の連携強化については、どの病院も必要性が高いと認識され、1対1の連携というより、複数の病院との連携を望まれている。どのような患者を依頼したいか、受入れたいかについて、病院間での情報交換ができる機会を設定してもらいたい。

3 今後について

○このスキル提供を介した病病連携のしくみについては、研修自体を目的としていたのではなく、スキル提供という方法によって病院間の関係強化と患者の受入れ幅の拡大を狙ったものであったが、その点についての回復期や慢性期病床を持つ病院のニーズから少しずれがあることから、スキル提供を介したしくみではなく、病院間の効果的な情報交換がどうあるべきかについて検討してみてもどうか。

(病院の機能分化・連携が加速するような円滑な情報交換のあり方とは)

○また、看護師の学びたいというニーズについては、看護協会や病院等における研修の機会もあると思われるが、病病連携の促進というより市内病院全体の看護の向上という目的で、認定看護師等が地域の医療関係者への指導的役割を担うという方向について、検討してはどうか。

(認定看護師等の地域の医療関係者に対する指導的役割としての活躍という方向性について)